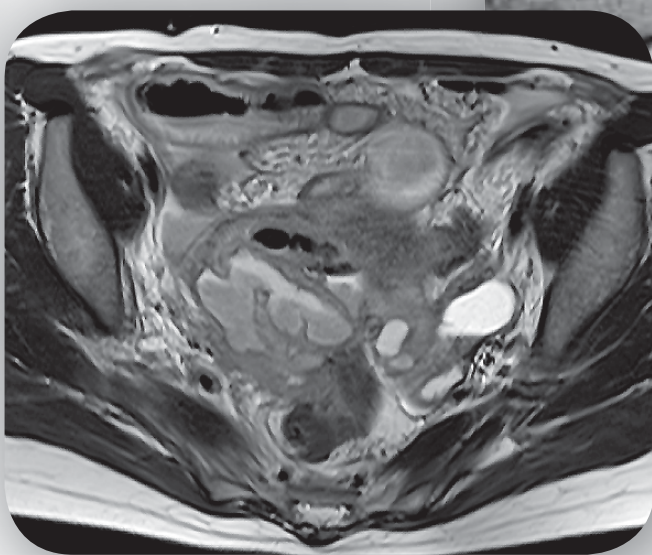
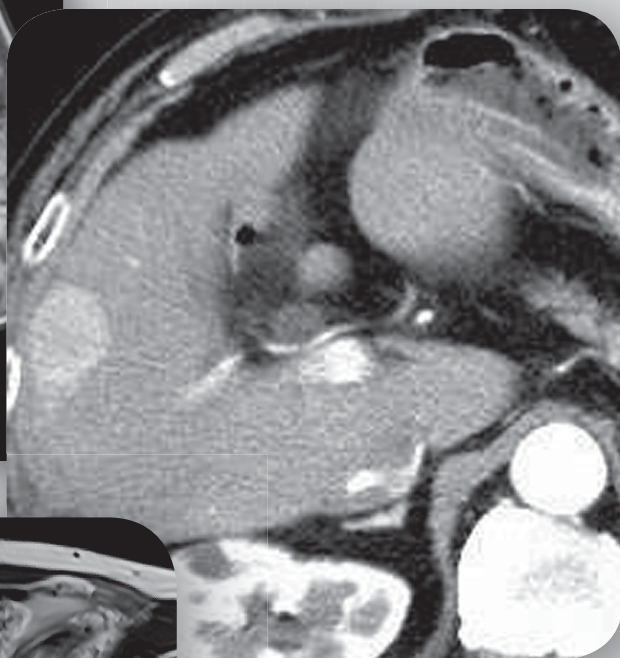
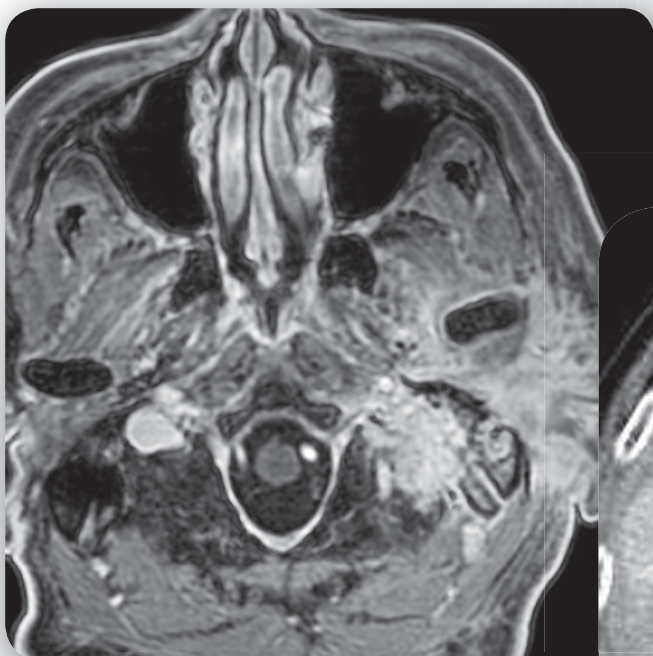


特集

炎症性病変の画像



(写真：p775, 796, 834より)

診断： 悪性病変との鑑別を中心に

序説

悪性病変と炎症性病変は治療方針がまったく異なるため、画像での両者の鑑別は重要である。しかしながら、炎症性病変と悪性病変は非常によく似た画像を呈することがある。また画像診断医は日常臨床ではすべての領域の読影が要求されるため、特に専門領域以外で腫瘍と炎症の鑑別に難渋することも少なくないと思われる。

そこで今回、腫瘍と炎症の鑑別に迫ることを本特集の目的とし、各臓器ごとに、それぞれの領域のご専門の先生に執筆を依頼させていただいた。

中枢神経領域においては、宮崎大学 放射線医学分野の東 美菜子先生らに、頭頸部領域は高松赤十字病院 放射線科の外山芳弘先生に、呼吸器領域は川崎医科大学 放射線診断学の谷本大吾先生らに、肝領域は広島大学 放射線診断学の赤木元紀先生らに、胆・膵領域は埼玉医科大学国際医療センター 画像診断科の松浦紘一郎先生らに、泌尿器・男性生殖器領域は島根大学 放射線科の吉田理佳先生らに、女性生殖器領域は鳥取大学 画像診断治療学分野の藤井進也先生らに、小児領域は広島大学 放射線診断学の松原佳子先生らに、腫瘍と炎症の鑑別点における臨床的事項ならびに画像所見について解説いただいた。

個人的には特に腹部以外の領域においては、恥ずかしながら初めて知った概念や画像ポイントも多々あり、非常に勉強になるとともに、本特集を熟読したうえで明日からの診療に臨まねばならないと痛感した。読者の皆様にとっても、本特集が炎症と腫瘍という究極の鑑別診断の一助となれば幸いである。

中村優子